

果樹の発芽及び開花予測法（追補）

－発芽及び開花予測の能率化－

（園試果樹部）

1. 背景とねらい

りんご等の発芽及び開花期の予測方法は、平成4年度に『果樹の発芽及び開花予測法』として指導上の参考事項に供したが、「メッシュ気象情報システム」の時間値データの取得に時間を要する等効果が劣ることから、パーソナルコンピューターによる予測システムを開発した。そこで、このシステムを使用し、園試で算出した定数（平均D T S）により、県内各地での生育予測が可能かどうか検討した結果、成果が得られたので参考に供する。

2. 技術内容

- 1) 「メッシュ気象情報システム」のメッシュ気温からパーソナルコンピューターを用い、効率良く、発芽及び開花予測が可能なシステムを開発した。
- 2) 現地のデータがない中で、園試で算出した定数（平均D T S）により普及所の定点観測地点でりんごの開花予測を行なった結果、1～2日程度の誤差で、園試で計算した平均D T Sを使用しての予測が可能である。

3. 指導上の留意事項

- 1) 本システムの発芽及び開花予測では、最適E a、起算日、平均D T Sを用いて、メッシュ気温の日最低気温と日最高気温から一日を単位とした温度変換日数を計算し、予測結果をグラフと共に表示する。
- 2) 予測では、①予測日以降が平年並に推移した場合と②予測日以降が予測年の気温変動に準じて推移した場合で計算した2つの予測日を示す。
- 3) 最適E aと起算日は、園芸試験場の気温で計算した値を使用し、平均D T Sは、①園芸試験場の計算値と②予測地点の平年気温・平年生育日からの計算値の2つから選択できる。

4) 開発で使用した機種等

パーソナルコンピューター；NEC 9800シリーズ

使用言語；N88-BASIC VER6.0

オペレーティングシステム；MS-DOS 3.3C

- 5) メッシュ気温の欠測値は、平年値を代入して計算している。

- 6) 本システムの予測法の考え方については、平成4年度の指導上の参考事項『果樹の発芽及び開花予測法』を、具体的な使用方法については、作成したマニュアルを参照する。

5. 試験成績概要

第1図 プログラムの構成とフローチャート

